

# ……観光……



↑郷土館での情報交換の様子

## 観光マップづくり経過報告

先月の広報紙でお知らせした観光マップづくりが、郷土館で順調に行われています。みんなで意見を出し合い、情報交換をしながら熊野町について楽しく語り合っています。

観光マップに関わる情報をくださった皆さん、情報提供ありがとうございます。引き続き熊野町の観光情報を募集していますので、情報提供をよろしくお願ひします。また、興味のある方は自由に参加できますので、ご連絡ください。

問合せ先 地域振興課 TEL820-5602  
生涯学習課 TEL820-5621

「熊野のことをもっと知ってもらい。」と観光客の視点から考えた「観光マップ」作成のための情報交換会や、観光客に熊野の史跡や筆事業所を案内する「観光ボランティアガイド」の活動など、観光に関する取り組みが行われています。

## 観光ボランティアガイド活動

今年から活動を始めている、筆の都の案内人の会（観光ボランティアガイド）が、広島市の俳句の会の方に、ゆるぎ観音、筆の里工房、郷土館などを案内しました。

ただ見るだけでなく、見学する際に案内人の説明があれば、そのものに対して理解が深まり、新たな発見もあります。

熊野町の観光案内を希望される方がおられましたら、地域振興課までご連絡ください。



↑筆の都の案内人の会（観光ボランティアガイド）による案内の様子

問合せ先 地域振興課 TEL820-5602

熊野町公衆衛生推進協議会  
（生活環境課内）



植栽当日の様子

役場庁舎前に  
芝桜を植栽します。

熊野町公衆衛生推進協議会では、町内の景観向上を目的として、10月15日（月）に役場庁舎前の河川敷に約800本の芝桜の苗を植え付けました。開花時期は来年5月下旬が予想され、今後は開花に向け、維持管理活動を行っていきます。

役場庁舎前に  
芝桜を植栽します。

## 危険業務従事者叙勲 瑞宝双光章

■木村 勉さん（川角）  
61歳・防衛



昭和38年に陸上自衛隊に入隊後、定年までの37年間、銃、戦車、大砲などの武器の整備業務に従事され、平成7年1月の阪神大震災にも災害派遣として1ヵ月半の間、復興支援に当たられました。

### 受章者の言葉

「適任者は多くおられたと思いますし、私が受章していいのかなと思いました。素直にありがたい気持ちでいっぱいです。これも支えてくれた家族、また、良い上司、同僚、後輩に恵まれたおかげだと感謝しています。」

## 危険業務従事者叙勲 瑞宝単光章

■高松芳伸さん（川角）  
61歳・防衛



昭和43年に海上自衛隊に入隊後、定年までの31年間を呉の第一潜水隊で潜水艦機器の部品や物品の受入れ業務に従事されました。潜水艦の航海中には、約80人分の食事を作られることもありました。

### 受章者の言葉

「家を空けることが多く、それが苦痛だったが、無事定年を迎えられて良かったです。振り返ってみれば、苦労だと思っていたことが苦労ではなかった気がします。家庭や子どもを任せきりにしていた妻、励ましてくれた兄弟・親戚に感謝しています。」

## 秋の褒章 黄綬褒章

■高本和男さん（城之堀）  
67歳・白鳳堂社長



昭和49年に白鳳堂を創業後33年間、伝統の熊野筆の技術を生かした高級化粧筆の製造に尽力されてきました。中国からの安価な完成品の流通や大量生産による粗悪品が生まれる中、品質向上に努められ、平成16年には「ものづくり日本大賞内閣総理大臣賞」を受賞されるなど、国内外250社と取引する会社にまで育てあげられました。

### 受章者の言葉

「化粧筆の分野はまだ発展していく。これからも、一般ユーザーの声を品質向上につなげ、良い製品を提供したい。」

# 第9回危険業務従事者叙勲、 平成19年秋の褒章 受章おめでとうございます

危険業務従事者叙勲は、自衛官、警察官など危険性の高い分野に従事し、自己を犠牲にした方に授与されるものです。  
また、秋の褒章（黄綬褒章）は、一筋に仕事に励み、模範となる方に授与されるものです。  
（総務課）

## 危険業務従事者叙勲 瑞宝単光章

■高松 勲さん（呉地）  
61歳・防衛



昭和37年に海上自衛隊に入隊後、39年間を主に航空隊で通信業務に従事され、晩年は江田島第一術科学校で通信の教官として10年間指導された後、呉所属部隊の船で任務に当たられました。

### 受章者の言葉

「今まで、出張等で留守にすることが多かった家庭を守り、支えてくれた家族、励ましてくれた両親・兄弟・親戚に感謝しています。また、上司、先輩、同僚に助けていただいたおかげです。今後この勲章に恥じないように、地域に貢献したいです。」

## 危険業務従事者叙勲 瑞宝単光章

■林 茂司さん（新宮）  
74歳・警察



昭和28年に警察官として採用後、37年間を主に警備部門で要人警護や、終戦後の食糧難等の混乱による集団的な犯罪に対して、事故や事件を未然に防ぐため、不眠不休で治安維持に努められ、平成に入ってから警備専門官として後輩の指導に当たられました。

### 受章者の言葉

「生真面目に一生懸命努力したこと、組織の団結と多くの人のご支援のおかげだと、ありがたく思っています。仕事中心で家族には大変苦勞をかけたことが、よく耐えてくれました。本当に感謝しています。」